日本帝國皇室典範

76
6289

872

門 ワ 6
6289

日本帝國皇室典範

（千八百八十八年）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐タル日本國天皇朕御名
朕カ皇室祖先傳來ノ舊慣及變遷セル政治上ノ形勢ヲ熟察
シ朕カ樞密院ノ意見ヲ聽キ左ノ皇室典範ヲ設ク
朕是レヲ以テ之ヲ制定シ且命令ス

第一章　皇族

第一條　日本皇室ハ左ノ皇族ヲ以テ成ル

(イ)　皇族ノ首長タル天皇
(ロ)　皇后
(ハ)　皇太后

去水五味均平藏

昭和 九年 カ ノ ー

(三) 祖宗ヲ共ニシ且天皇ノ許可ヲ経タル正當ノ配偶ニ出テタル男統(メンリツヘ)(ルリニー)ノ親王及内親王或ハ天皇ノ正式ノ許可ヲ得テ養子トシタル親王及内親王但シ内親王ハ未タ皇室外ニ於テ位階相當ノ婚姻ヲ為サヽル間トス

(ホ) 天皇ノ許可ヲ得テ合法的ニ婚姻セル親王ノ妃及其嬪妃

第二條 天皇ノ長男及若シ天皇ノ長男其男子ヲ遺シ天皇ニ先タチテ殂落シタル時ハ其長男ヲ皇太子(クローンプリンツ)ト稱シ殿下(カイセルリツヘ)(ホーハイト)ノ榮稱ヲ帶フ

第一條(ハ)及(ニ)ニ掲ケタル親王及内親王モ亦総テ殿下ノ榮稱ヲ帶フ

第三條 親王及内親王ノ位階ハ詳細ナル皇統承継權(トロンフホルゲ)(レヒト)ニ依リ之ヲ定ム

親王及内親王ノ紋章ハ皇室ノ紋章ニシテ史傳上著明ナル或ハ天皇ノ許可ヲ経タル識別標ヲ附シタルモノトス

第二章

皇族ニ對スル天皇ノ監督

第四條 皇族ハ総テ皇室典範ニ基キ天皇ノ尊嚴及裁判權ニ服從スヘキモノトス天皇ハ皇族ノ首長トシテ一定ノ權利ヲ以テ皇族ヲ監督ス

第五條 天皇ハ総テ皇室ノ安寧榮譽秩序及福祉ヲ維持スルノ法策ヲ施行スルノ權利ヲ有ス

第六條 天皇ハ此ノ監督權ヲ有スルカ為メニ皇室悉皆ノ

親王及内親王ノ教育ヲ視察シ且教育ニ関スル報告ヲ需ムヘシ

第七條　日本國ノ親王及内親王ハ天皇ノ許可ヲ得ルニアラサレハ決シテ外國ニ滞留スルヿヲ得ス

第八條　天皇未丁年ノ間及攝政期限内ハ此ノ監督權ハ攝政官ニ属ス

第三章

皇族ノ婚姻

第九條　豫メ天皇ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ日本國ノ親王及内親王ハ決シテ婚姻ノ約ヲ結フヿヲ得ス

第十條　天皇此婚姻ヲ承諾スルコトニ異議ナケレハ親署及宮内大臣ノ證印（コントラジナツール）ヲ捺シタル承諾證ヲ製シ帝室ノ封印ヲ鈐セシメ之ヲ與フヘシ

第十一條　天皇ノ承諾ナクシテ皇室ノ親王及内親王カ締結シタル婚姻ニ於テハ其位階稱號及紋章ニ關スル權利ハ其婚姻シタル妻或ハ夫及斯ノ如キ伉儷ノ間ニ生レタル子女（キンデル）ニ及ハサルモノトス

右ノ如キ婚姻ヲ締結シタルカ為メ遺産相續（スタールフエルブフオル）ゲ）親王領地（アパナジエ）ヲ家資（アウスストイエル）ライトフーム」夫ノ死後妻ニ讓ル家補助金（ユスケンタケヨンスゲルデル）或ハ私房銀（ナーデルゲルデル）貴族ノ妻カ毎年其夫ヨリ受クル小遣金ニシテ自由ニ使用スルヿヲ得ルモノ）ノ請求權ヲ生スルヿナシ

右ノ如キ伉儷ノ女子或ハ孀婦ハ唯其父或ハ夫ノ私有財産ヲ以テ養育（アリメンタチヨン）セラレンヿヲ求ムヘシ

第十二條　總テ天皇ノ許可ヲ經スシテ締結シタル皇室ノ

親王及内親王ノ婚姻契約ハ無効トス

第十三條　日本ノ法典上ニ許容スル皇室ノ養子ハ近遠ノ血族ニ限ル

養子ハ天皇ノ許可ヲ経テ始メテ法律上ノ効力ヲ有スルヿヲ得ル

第四章

皇族ノ降誕結婚及薨去ノ證明（ベウルクングング）

第十四條　天皇及皇室ニ關スル證明ハ宮内大臣侍従長（ヨーベルストケンムレル）ノ補助又ハ親王及内親王ニ關スル證明ハ主任別當（キーフシェーフ）ノ補助ヲ得テ證明二通ヲ製シ一通ハ皇室ノ記録局ニ一通ハ政府ノ記録局ニ藏ヲ置クヘシ

第十五條　天皇ハ皇室ノ親王、大臣及皇室政府ノ貴紳（ウルテ

ントレーゲル）中ヨリ須要ニ應シテ若干名ノ保證人ヲ指名ス

第十六條　天皇此ノ證明ヲ為スノ地ニ在ラサレハ天皇ノ特命ニ依リ宮内大臣保證人ヲ指名ス宮内大臣不在ナレハ居合セタル皇室ノ親王政府及宮内ノ最高官各一名或ハ武官保證ヲ任ス

右ニ關スル商議録ハ宮内大臣之ヲ檢閲シ其檢閲ヲ了シタル後同大臣之ヲ天皇ノ一覧ニ供シ然ル後第十四條ニ掲ケタル二通ノ證書ニ調製スヘシ

第十七條　宮内大臣ハ皇室ニ降誕結婚及薨去アリシヿヲ證明スルカ為メニ天皇ノ特命ニ出タル許可ヲ得ルヲ要ス

第十八條　宮内大臣ハ皇族ノ薨去シタル場合ニ於テ該皇

族ノ宮殿或ハ室房ニ封印ヲ為ス
同大臣事故アリテ封印ヲ為スヿ能ハサル場合ニ於テハ
宮内省ノ委員封印ヲ為スノ権利ヲ有ス又其所ニ居合セ
タル最高官吏ハ之ヲ委任セラルヽヿアリ

第五章
継嗣

第十九條　日本ノ帝位ハ日本皇室男統ノ世襲ニシテ不分割（ウンタイルハ）長子相續（エルストゲブールト）及内戚継嗣（アノナチツシエリツシエ）ノ原則ニ従フ

第二十條　継嗣ノ資格ヲ有スルニハ皇室ヨリ位階相當ト認可セラレタル伉儷ノ正當ナル生子（レヒトメツシエゲゲブールト）タルヲ要ス

第二十一條　皇室ニ於テ日本法律ニ適當スル養子ヲ為シタル時ハ此ノ養子トナリタル親王ハ君主直接ノ子孫ノ系統中ニ編入シ日本親王ノ稱號ヲ得公然日本親王トシテ認承セラルヽモノトス

第二十二條　君主カ継嗣ヲ有スル正配ノ皇子ヲ遺サスシテ殂落シタル時ハ養子トナリタル親王帝位ヲ襲ク

第二十三條　養子ヲ為シタル後先帝ノ殂落ノ前ヨリシテ継嗣ノ資格ヲ有スル正配ノ皇子降誕アルヘキヤノ望アル時ハ養嗣権ハ正配ノ皇子ヲ得ルノ望断絶スルマテ停止ス然レトモ養子及其子孫ハ尚ホ日本親王及内親王ノ特権ヲ具有スルモノトス

第二十四條　日本帝國ノ皇室ニ於テハ先ツ現ニ登臨スル

君主ノ男統帝位ヲ承継ス此ノ男統竭滅スレハ帝位ハ有栖川家ノ男統ニ有栖川家ノ男統盡ルスレハ伏見家ノ男統ニ次ハ閑院家ノ男統ニ最後ニ桂家ノ男統ニ襲カシム女統ハ総テ之ヲ継承スルヿヲ得ス

第二十五條　若シ日本諸皇族中男統竭滅シ且天皇ノ許可ヲ以テ継嗣ニ定メタル養子ヲ為サヽリシ時ハ継嗣ハ先帝ノ女子ニ移ルト雖モ女子ハ親カラ政治ニ任スルヿヲ得ス唯其男子ニ帝位ヲ継カシムルノミ

第二十六條　此ノ系統承継ノ順序ハ先帝ノ殂落後最モ年長ノ内親王（先帝ノ皇女或ハ最近内親王）ノ長男ヲ以テ先ツ帝位ニ即カシムルモノトス

此ノ如キ新皇室ノ子孫モ亦直チニ長子相續男統相續継嗣ノ原則ニ基キ男統ノ優権ヲ設クヘシ

第二十七條　皇室ノ内親王ハ其婚姻ヲ為ス以前棄権證書ヲ調製スヘシ此證書中ニハ内親王カ自己及其嗣子ノ為メニ此ノ皇室典範第二十五條及第二十六條ニ載セタル男統竭滅及養子欠乏ノ場合ニ於ケル政府ノ承継ヲ辞退スル旨ヲ述ヘ且此ノ皇室典範ニ明文アルモノヽ外自己及其嗣子ノ為メニ私ノ遺産ニ関シテ請求権アルヿヲ主張セサルヘシトノ旨ヲ記スヘシ而シテ此ノ棄権ハ「エーパクテン」（婚姻ノ際財産ニ附キテ取結ノ契約書）中ニ記載スヘシ

第六章

皇室ニ関スル裁判権及皇族會議（ファミリー・コンセイル）

第二十八條　皇族ニ對スル物件（レアル）及混淆事物ノ訴訟ハ

主務（コムペテンツ即チ之ヲ處理スル職權アルシ）帝國控訴裁判所ニ呈出スヘシ

第二十九條　總テ皇室ノ親王及内親王ノ身上ニ關スル他ノ裁判事件ハ天皇皇族會議ヲ開カシメテ其法廷ト爲スヘシ

第三十條　皇族會議ハ天皇皇太子十八歲ニ達シタル皇室ノ親王諸大臣及最高刑法官（クロー　ベ　アームラ）若クハ樞密院長ヲ以テ組織ス

第三十一條　皇族會議ノ議長ハ天皇之ニ任シ天皇欠席スレハ皇太子之ニ任ス天皇、皇太子共ニ欠席スレハ君主ノ見込ヲ以テ之ヲ他ノ一人ニ委任ス

此ノ委任ハ特別ナル命令（ゲツツト）ニ依ル

第三十二條　皇族會議ハ天皇ノ明瞭ナル勅命ニヨリ天皇ノ定メタル目的ノ爲メニ集會ス

天皇故障アレハ皇太子皇太子モ亦故障アレハ皇室内戚（アグナテ）ノ年長者皇族會議ヲ召集スルヿヲ得ル後ノ場合ニ於テハ樞密院ノ同意ヲ要ス

第三十三條　皇族會議ノ職務範圍内ニ屬スルモノ左ノ如シ

(イ)　皇室ノ親王及内親王ニ對スル悉皆ノ刑事及訴願（ベテイシヨン　ウエーテ　ルテ）

(ロ)　總テ皇室ノ親王及内親王ニ對スル一身上ノ訴訟

(ハ)　親王及内親王ノ禁令（インテルデク　テヨーネン）

(ニ)　親王及内親王ノ民法上ノ効力ニ關係スル離婚

(ホ) 後見事件

第三十四條　一身上ニ關スル訴訟ニ際シテハ先ツ關係人ヲ勸解スルヿヲ試ムヘシ協議調ヒ且天皇之ヲ允可シタレハ皇族會議ノ召集ヲ止ム

第三十五條　皇族會議ヲ召集シタル時ハ命令ヲ以テ之ヲ悉皆ノ皇族ニ通知ス

第三十六條　司法大臣ハ皇族會議ニ際シテ報告（フォルトラーグ）ヲ為ス

第三十七條　訴訟ノ事件緊要ニシテ且其範囲大ナル時ハ皇族會議ハ帝國最高裁判所ノ資格ヲ備フ此ノ場合ニ於テハ最高司法衙門（ヲーベルステユスケッツスネルレ）及首府ノ控訴裁判所ノ長官ヲ陪席セシム

第三十八條　後ノ場合ニ於テハ兩法官長ハ處分ニ關スル法律的ノ訓令ヲ檢案シ且報告ヲ為ス

第三十九條　皇族會議ハ其附與セラレタル資格ヲ以テ訴訟事件ノ權利ノ關係ヲ判定ス此ノ裁決ハ天皇ノ證認ヲ要ス

第七章

帝國ノ攝政及君主ノ後見

第四十條　帝國ノ攝政ヲ未タス場合左ノ如シ

(イ) 尋常ノ場合即チ天皇未丁年ノ間

(ロ) 非常ノ場合即チ天皇カ體軀上或ハ精神上ノ疾病ノ為メニ一時或ハ久シク政事ノ執行ヲ妨ケラレ毫モ帝國ノ政治ニ注意セス或ハ注意スルヿヲ得サル時及

日本帝國ノ版圖外ニ行キテ不在ナル時

(ハ) 皇族全ク竭死シ最後ノ君主ノ崩シタル際尚ホ合法的ノ儀式ヲ以テ儲貳ヲ定メサリシ時

第四十一條　天皇及皇太子ハ滿十八年ヲ經テ丁年ニ達シ他ノ親王及内親王ハ滿二十一年ヲ經テ丁年ニ達スルモノトス

第四十條(ロ)ノ規則ニ基キ非常ノ攝政ヲ置クヘキ場合ハ憲法(フエルフハツスングスウルクンデ)ヲ以テ之ヲ詳定ス

第四十二條　天皇ハ自己ノ意見ヲ以テ皇室丁年ノ親王中ニ就キ儲貳未丁年間ノ攝政官(テイヒスツエーセル)ヲ選定スル權利ヲ有ス此ノ如ク豫メ選定シタル攝政官ヲ欠ク時ハ皇統承継例(リネアールエルフヨルゲヲルドヌング)ニ從ヒ且ツ長子權(エルストケブレルツレヒト)ニ由リ最近ノ承継者タル丁年内戚ノ親王ヲ以テ攝政官ニ充ツ

第四十三條　最近承継ノ權利ヲ有スル内戚ノ親王未丁年ナルカ或ハ其他ノ故障アル場合ニ於テハ攝政ニ任セラルヽノ權利ハ承継例ニ從ヒ之ニ亞キタル最近ノ承継者タル丁年内戚ノ親王ニ轉移ス

一旦攝政ノ職ヲ執リタル内戚ノ親王ハ君主丁年ニ達シ或ハ君主ニ施政ヲ妨ケタル故障ノ消滅スルマテ其職ヲ維持スルモノトス

施政ヲ妨ケラレタル君主ニ先ケテ攝政官薨去シ或ハ自カラ施政ヲ妨ケラレタル時ハ之レニ亞キタル最近ノ承継者タル丁年内戚ノ親王此ノ職ヲ襲クヘシ

第四十四條　第四十二條ニ從ヒ天皇ニ於テ未丁年ノ場合ノ為メニ攝政官ヲ選定シタル時ハ宮内大臣之レカ為メニ二通ノ證書（ウルクンデ）ヲ調製シ一通ハ皇室ノ記錄局ニ一通ハ政府ノ記錄局ニ藏メ置キ攝政ヲ要スル場合ニ至レハ之ヲ發表シ同時ニ攝政官ニ此ノ選定ニ關スル證書ヲ示スヘシ攝政官ハ攝政ノ宣誓ヲ了リタル後其職ニ就クヘキモノトス

第四十五條　前記ノ第四十條(ニ)ニ掲ケタル場合ニ於テハ憲法或ハ皇室典範ニ依リ攝政官ニ任スヘキ内閣ノ親王丁年ニ達スルマテ攝政ノ職ハ内大臣（グロッスベーケル）或ハ其他ノ最高刑法官ニシテ全ク丁年内閣ノ親王ナキ時ニ際リテ帝國ヲ管理スル所ノ者之レニ任ス

第四十六條　儲貳其他皇室ノ親王内親王ノ看護及教育ハ皇太后（カイゼリン　ヴヰトウエー）ニ屬ス皇太后ナキ時ハ此ノ權利ハ太皇太后（カイゼリン　ムッテル）若クハ親王及内親王近親者ノ孀婦或ハ婦人ニ帰ス然レトモ皇太后或ハ太皇太后ハ決シテ攝政ノ權利ヲ有セス

攝政官ハ未丁年或ハ政治ヲ妨ケラレタル天皇ニ對シ普通ノ監督權ノ外他ニ勢力アルヿナシ

第四十七條　第四十條(イ)及(ロ)ニ掲ケタル場合ニ於テハ未丁年或ハ政治ヲ妨ケラレタル天皇ノ名ヲ以テ政事ヲ執行シ其名ヲ以テ法令及任命書ヲ發シ其印章（インペーケル）及花押（ナーメンスツーク）ヲ用ユ

第四十八條　攝政職ヲ奉スル皇室ノ親王或ハ内大臣ハ其

固有ノ稱號ノ外日本帝國攝政官ナル稱號ヲ帶ブ攝政官ハ此ノ稱號ヲ以テ政令ニ署名ス

第四十九條　攝政官ハ其職ニ就クニ際リ左ニ記載スル宣誓書二通ヲ出スヘシ

予ハ法律及憲法ヲ遵奉シテ帝國ノ事務ヲ管理シ日本帝國ノ完全政府ノ權利天皇ノ尊嚴ヲ維持シ予ニ執行ヲ委任セラレタル權利ヲ忠直ニ天皇ニ奉還スヘキヿヲ宣誓ス

此ノ宣誓書ノ一通ハ皇室ノ記錄局ニ一通ハ政府ノ記錄局ニ藏メ置クヘシ

第五十條　攝政ノ期限中攝政官ハ總テ憲法皇室典範ヲ以テ特ニ例外ト為サヽル主權（ソウヴェレイテート）ノ權利ヲ執行ス

第五十一條　攝政官ハ各般ノ政務上攝政會議（レゲントシヤフト）ヲ開（スタートワツヒ）キ（スケリウム）ノ同意ヲ受クルノ義務アリ何等ノ範圍内ニ於テ樞密院カ之レニ干渉スヘキヤハ該當法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條　攝政官ハ其攝政期限中皇居若クハ一宮殿中ニ住居ヲ有シ隨意ニ皇居ヲ使用スルヿヲ得且年額五萬円ノ代理金ヲ月割トシテ毎月始メニ帝室費中ヨリ受領スヘシ

第五十三條　攝政ノ期限ハ第四十條（ロ）ノ場合ニ於テハ故障ノ消滅シ或ハ天皇日本國ニ歸着ノ日（ハ）ノ場合ニ於テハ新君主即位ノ日ヲ以テ終ルモノトス

第五十四條　攝政終結ヲ告ケ政治ヲ親裁スヘキ新天皇憲

法に基き

朕ハ法律及憲法に遵ヒテ日本帝國ヲ統御シ常ニ公平ナル司法ヲ執ルヘキヲ誓フ」ト

ノ宣誓ヲ為シタル後ハ総テ攝政ノ制ヲ廢止シ新天皇政治ヲ執リタルヿヲ朝廷(レジデンツ)及帝國内ニ布告ス

天皇宣告ヲ為シ且政治ヲ執リタルヿニ関シテ二通ノ紀事録(プロトコール)ヲ調製シ一通ハ皇室ノ記録局一通ハ政府ノ記録局ニ藏メ置クヘシ

第八章

親王及内親王ノ後見教育及家計

第五十五條　皇室ノ親王及内親王ノ後見職ニシテ攝政事件ニ関係ナキモノハ其父ノ特命ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

此ノ如キ特命ナキ場合ニ於テハ第四十七條ニ因リ皇子皇女ハ先ツ皇太后次ニ太皇太后ニ属ス然レトモ其未丁年中ノ私産ノ管理ハ天皇若クハ攝政ノ監督ヲ受クヘシ

第五十六條　財産ノ管理上ニ於テハ帝國ノ法律ニ注意スヘシ私人ニ於テ後見人ノ所置ニ関シ裁判所ノ認承ヲ要スヘキ場合ハ皇族ニ於テハ天皇ノ允許ヲ要ス攝政ノ時ニ際リテハ攝政官ノ認承ト國務箱(スタートツェニス)ノ同意トヲ得サレハ財産ノ本質ヲ変更スルヿヲ許サス

第五十七條　皇太后或ハ太皇太后後見職ヲ終ラスシテ薨去シ或ハ法律上ノ故障ノ為メニ其職ヲ継續スル能ハサル時ハ其時ノ天皇或ハ攝政ニ於テ新ニ後見職ヲ選任ス

第五十八條　内親王ハ其婚姻スルマテハ皇族ノ首長即ハ

テ天皇或ハ攝政官ノ後見ヲ受ク

第五十九條　皇室ノ親王ハ其未丁年ノ子女ヲ教育シ及其財産ヲ管理スルカ為メニ其後見人ヲ任命スルヿヲ得ル然レトモ其後見人ヲ任命スルニハ天皇或ハ攝政官ノ認承ヲ要ス

其父後見人ヲ任命セス或ハ其指名シタル者ニシテ天皇ノ認承ヲ得サル時ハ天皇ハ攝政官ニ於テ選任スヘシ

第六十條　皇室ノ親王及内親王附ノ職員ハ天皇ノ許可ヲ経テ之ヲ任命シ皇太后、太皇太后、皇后、皇太子及皇子、皇女附ノ職員ハ天皇親カラ之ヲ任命ス

第九章

皇室典範（通則ノ部）ノ施行及布告

第六十一條　此皇室典範ハ帝國法令彙纂ヲ以テ布告スルト同時ニ効力ヲ有ス

第六十二條　此時ヨリ以降此皇室典範ニ背行スル習慣法及制度ヲ廢止ス

第六十三條　朕我皇族及我帝國臣民ニ告クルニ此皇室典範（通則ノ部）ヲ遵守スヘキ旨ヲ以テス此皇室典範ハ帝國法令彙纂ニ登載シテ之ヲ布告セシム

何年何月何日

東京ニ於テ

親署

何某副署

第六章

皇室ニ關スル裁判權及皇族會議（フハミリー）

第二十九條　皇族ニ對スル物件（レアール）及混淆事物ノ訴訟ハ主務（コムペテント即チ之ヲ處理スル職權アル）帝國控訴裁判所ニ呈出スヘシ

第三十條　總テ皇室ノ親王及內親王ノ身上ニ關スル他ノ裁判事件ハ天皇之レカ爲メニ皇族會議ヲ開クヘシ

第三十一條　皇族會議ハ天皇、皇太子、十八歲ニ達シタル皇室ノ親王、諸大臣及最高刑法官（クローンベアームテ）ヲ以テ組織ス

第三十二條　皇族會議ノ議長ハ天皇之レニ任シ天皇欠席スレハ皇太子之レニ任ス天皇、皇太子共ニ欠席スレハ君主ノ見込ヲ以テ之ヲ他ノ一皇族ニ委任ス此ノ委任ハ特別ナル命令（デクレット）ニ依ル

第三十三條　皇族會議ハ天皇ノ明瞭ナル勅命ニヨリ天皇ノ定メタル目的ノ爲メニ集會ス

天皇故障アレハ皇太子、皇太子モ亦故障アレハ皇室內戚ノ年長者皇族會議ヲ召集スルヿヲ得ル

第三十四條　皇族會議ノ職務範圍內ニ屬スルモノ左ノ如シ

(イ) 皇室ノ親王及內親王ニ對スル悉皆ノ訴願（ベシュウエール デ）

(ロ) 皇室ノ親王及內親王ノ身上ニ對スル訴訟

(ハ) 親王及內親王、禁令（イレテル ケヨーン）

(ニ) 親王及內親王ノ民法上ノ効力ニ關係スル離婚

(ホ) 後見事件

第三十五條　身上ニ關スル訴訟ニ際シテハ先ツ關係人ヲ

勅解スルヿヲ試ムヘシ協議ト且天皇之ヲ允可シタル
ハ皇族會議ノ召集ヲ止ム
第三十六條　皇族會議ヲ召集シタル時ハ命令ヲ以テ之ヲ
悉皆ノ皇族ニ通知ス
第三十七條　司法大臣ハ皇族會議ヲ際シテ報告（フオールトラーゲ）
ヲ爲ス
第三十八條　訴訟ノ事件緊要ニシテ且其範圍大ナル時ハ
皇族會議ハ帝國最高裁判所ノ資格ヲ備フ此ノ場合ニ於
テハ最高司法衙門（ヲーベンスヤステユス）及首府ノ控訴裁判所
ノ長官ヲ陪席セシム
第三十九條　後ノ場合ニ於テハ兩法官長ハ處分ニ關スル
法律的ノ訓令ヲ檢案シ且報告ヲ爲ス

第四十條　皇族會議ヲ其附與セラレタル資格ヲ以テ訴訟
事件ノ權利ノ關係ヲ判定ス此裁決ハ天皇ノ認可ヲ要ス

疑題中ノ重件ハ既ニ総理大臣ノ指揮ヲ得更ニ又柳原
伯ノ意見ヲ酌ミ立案シテ別冊トナシタリ此巻ハ存シ
テ以テ後日ノ考ニ備フ

皇室典範第皇族令疑題十七件

井上毅

目次

一継嗣順序ヲ変換スル場合ノ事
一皇太子在テス皇太子ノ子孫モ在ラサルトキノ傳位ノ事
一践祚即位ノ事

一天皇幼年ノ時ニ太傅ヲ置ク事
一攝政ノ成年ノ事
一皇位ノ璽章ノ事
一親王宣下ノ事
一皇室財産ノ事
一皇族歳俸ノ事
一皇太后ト皇后トノ位次ノ事
一先帝ノ親王ト今上ノ親王トノ位次ノ事
一立太子ノ事
一庶出皇族ノ事
一四親王家要分ノ事
一皇孫以下ノ歳費ト長系ト次系ヲ分ツヤ否ヤノ事

一皇族位列ノ事
計十七條

一繼嗣順序ヲ変換スル場合ノ事
此レハ皇位繼承ニ取テノ一大事ナリ
宮中顧問會議ノ説明書ニハ(繼嗣順當ノ皇子前記ノ如キ違豫ナルトキハ繼嗣ノ權ハ次ノ皇子ニ傳フ)トシタリ
柳原案ニ依レハ(皇位繼承者ノ心性又ハ外形ノ缺缺又ハ其他ノ事故ニ依リ繼承ノ順序ヲ変換スル事必要ナルトキハ元老院ニ諮詢シ之ヲ決定ス)トシタリ此レハ英國ニテ下院ノ議ヲ以テ繼承ノ順序ヲ換ルノ例ニ依

ルカ如シ又主トシテ佛ノ三世「ナポレオン」ノ時ノ元老院ヲ以テ憲法ノ看守トシタルニ依レリ繼嗣ノ事一タビ外議ニ附スルトキハ多事ノ際ハ必免ルヘカラス改メテ宮中顧問トセラルヘキニ似タリ

帝國ノ法ニ依レハ何等ノ病気アリトキ繼承ノ順序ハ変易セスシテ攝政ヲ用ヒテ之ヲ輔攝ス

右ノ三ノ方法ノ中宮中顧問ノ議尤便宜ニシテ我國ノ先例及事情ニ適スルニ似タリ帝國ノ法ハ從前王位ヲ以テ私有トシ民法ノ相續法ニ拠行シタル舊習ヨリ由来スルモノニシテ政事上國法ノ相續ニ適當ナラズ然ルニ此事ノ繼承法ノ家重事ナリ若シ宮中顧問ノ議ニ從ハルヽナラハ説明ニ止メズシテ必明文掲載ヲ要スベシ

獨乙白法ニ從ハ此如キ非常ノ場合ニハ繼承ノ順序ヲ換フルヲ以テ常トス

甲、何等ノ病患モ繼承ノ順序ヲ変セス

乙、繼承ノ順序ヲ変スルトキハ元老院ニ諮詢ス(或ハ改メテ宮中顧問トス)

丙、一條ノ明文ヲ以テ繼承順序変換ノ場合ヲ定ム

謹テ右ノ中ノ一ニ定メラレンコトヲ乞フ

乙丙ヲ参酌シ元老院ニ皇族會議又ハ宮中顧問ト改メ立案ス

一皇太子在ラス皇太子ノ子孫モ在ラサルトキハ傳位ノ事宮中顧問ノ案ニ從ヘハ

皇太子及其子孫俱ニ在ラサルトキハ左ノ順序ニ依ル

一皇次子皇三子以下

二皇次子ノ子孫

三 皇三子ノ子孫

以下准之但皇次子皇三子ト雖立坊ノ後ハ直ニ其子孫ニ傳フ

トシタリ

柳原案ニ従ヘハ

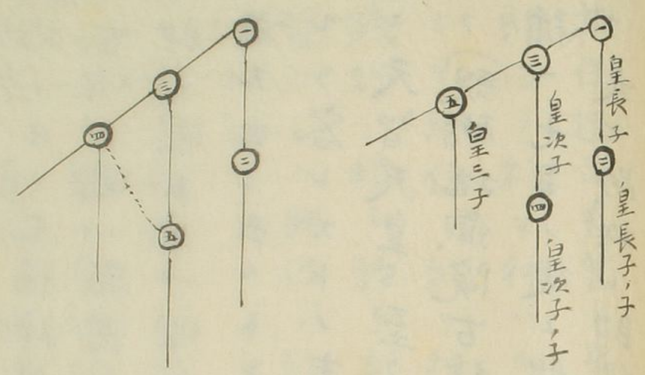
皇長子ノ子孫在ラサルトキハ皇次子以下及其子孫ニ傳フ

トシタリ皇次子及其子孫ニ傳ヘ皇次子及其子孫在ラサルトキハ皇三子ニ傳フルノ意ナルヘシ

大要両案ニ分ル

甲

乙



此事關係甚タ小ナラス両案ノ一ニ裁定ヲ乞フ

甲ニ従フ

一践祚即位ノ事

上古御國ノ習ハシニテハ踐祚ハ即チ即位ニテ別事ニ非ズ(今ノ義解ニ天皇即位謂之踐祚祚位也福也トアリ)又踐祚ノ日ニ三種神器ヲモ奉ラレタリ

此ノ古代ノ風ハ英國ノ有名ナル古諺ニ國王不死ト謂ヘル即チ國王ハ一個人ニ非ズシテ國家ノ代表ナルカ故ニ前王世ヲ去ルトキハ後王即時位ヲ継キ寸間ノ空位アルヲ容レズトノ主義ニ符合スル者ナリ

然ルニ天智天皇ニ至リ唐ノ禮服ヲ用ヒ即位ノ禮ヲ定メ玉フ(醍醐地藏院古記)而シテ位ヲ継キナカラ仍皇太子ト稱ヘ七年ノ後ニ始メテ即位ノ禮ヲ行ヒ天皇ト称ヘ玉フ是レ踐祚ト即位ト兩様ノ區別ヲナシタル初ナリ其後桓武天皇ニ至リ皇位ヲ継キ即チ天皇ト稱ヘ後ニ即位ノ礼ヲ行ハル是ヨリ後歴代踐祚ノ後或ハ數年ニシテ即位ノ礼ヲ行ハレタルコトアリ(然ルモ神器ハ必踐祚ノ時ニ於テ奉ルコト上古ト異ナラス)此ノ近来ノ習ハシハ即位ノ礼ハ欧洲ノ「コロヤーション」ト全ク相似タリ

今左ノ案ニ裁定アランコトヲ請フ

踐祚ヲ以テ即チ皇位継承ノ事トシ此時神器ヲ奉リ直チニ天皇ノ尊稱ヲ継キ玉フヘシ

右

右ニ依リ立案ス

一天皇幼年ノ時ニ太傅ヲ置ク事

柳原ノ案ニ特勅アル時ニ攝政参議ヲ置キ攝政ヲ輔佐スルコトヽシタリ此レハ巴威爾佛國葡國等ト依ル者ニテ獨乙學者ノ説ニ從ヘハ共同執政(攝政参議)ハ君主政ノ精神ニ背ク故ニ攝政ハ必天生人(一個人ヲ云)ニ委任スベシトス故ニ攝政参議ノ案ハ削除スヘキニ似タリ

但攝政ノ外ニ太傅ヲ置クコトヲ憲法又ハ家憲ニ掲クルハ(和蘭等)畢竟攝政ノ專恣ヲ防制スル爲ニシテ攝政及其子孫ハ太傅タルヿヲ得ス等ノ細密ナル條章ヲ設ケタリ柳原案ハ正ニ此ニ依リ構成サレタルナリ然ルニ獨逸ノ法ニ從ヘハ攝政ハ榮譽特權ノ外ハ總テ天皇ト同シトシ攝政ニシテ太傅ヲ兼ルモ又ハ別人ニ太傅ヲ任スルモ皆攝政ノ權ニ委ヌタリ此ノ兩樣ハ一問題ナルベシ

攝政ノ外ニ太傅ヲ置キ之ヲ家憲ニ掲クルヲ甲案トス

太傅ノ事ハ家憲ニ掲ケズ置クト置カサルトハ時ノ便宜ニ從フ是ヲ乙案トス

右裁定ヲ乞フ

甲ニ從フ

一攝政ノ成年ノ事

柳原案ニ攝政ノ成年ハ天皇及皇族ノ例ト同シク十八歲トシタリ然ルニ今茲ニ十七歲ノ天子アルノ場合ニ當リ最近ノ皇族攝政ノ順序ニ當レル人ハ僅ニ十八歲ヲ踰エ現在天皇ト一歲ノ差アラントト假定セハ仍ホ其人ハ家憲ニ依リ攝政トナルヘシ此レ事情ニ適セサルニ似タリ故ニ佛國葡國ノ例ニ依リ攝政ノ爲ノ成年ヲ

二十五歳ト定ムルカ又ハ伊國ニ依リ二十一歳ト定ム
ヘキカ如シ

右乞裁

又或國ノ例ニ依リ天皇ノ成年ヲ憲法又家憲ニテ
定メ其他ノ皇族ニ普通ノ丁年法ニ從ハレテハ如何成
年ノ皇族ノ賜邸賜俸等ノ都合ト亮ニ教育ノ為ニハ却
テ便宜ナルカ如シ

露國又ハノーフル等ニ依リ亦ノ一説ニ從フ

一皇位ノ璽章ノ事
柳原案ニ六十八條皇位ノ璽章ハ
一大日本國璽
一天皇御璽
一皇帝之寶
一天子神寶
ノ四ツトセリ

然ルニ大日本國璽ヲ以テ皇位ノ璽章トスルコト我國ノ古
典元各國ニ倶ニ例ナキコトニテ此レハ一新以後ニ御璽ヲ
一名國璽ト稱フル名義ヨリ誤マリ來リ遂ニ國璽ヲ彫刻ス
ルニ至リタルナリ其實ハ支那ニテ國璽ト云ルハ即チ御璽
ノ事ナリ

夫レ大日本國ヲ代表セル天子ニテ其天子ノ璽章ニ天皇又
ハ皇帝ノ尊号ヲ用ヒズシテ仍ホ大日本國ノ名ヲ用フルハ
名分ニ於テモ君主政體ノ主義ニ於テモ改メサルベカラサ
ルモノナリ

大日本國璽ト云ヘル璽章ハ削ル ヘキヤ乞裁

立案此一章ヲ削ル

一親王宣下ノ事

古ハ親王トハ即チ皇子ヲシテ親王宣下アルヿナシ親王宣下ハ光孝天皇ノ時ヨリ皇弟湯原王榎井王ノ諸王ナリシヲ親王トシ玉ヘルヨリ始マレリ故ニ維新後明治九年五月三十日布告御直ノ宮ノ親王宣下ヲ廢セラレタルハ當然ト謂フヘシ然ルニ嬉親王ト庶親王トノ間ニ又一緊ニ謂ヒ難キコトアリ今日嬉親王ハ御誕生ノ公布アリテ庶親王ハ公布ナシ若シ庶親王ヨリ直ニ立太子ノ事ヲ行ハセラルヽノ場合アリトセレバ是レ國民ノ未タ承知セザル皇子ニシテ遽ニ太子ノ位ニ立チ玉フナリ故ニ庶親王ノ爲ニハ親王宣下アルヿトヲ認メ玉ヒテ偏ヨリ皇子ニシテ太子ニ立チ玉フ事ハ一ノ便法ナルニ似タリ

公布ナキ

宣下ノ或ヲ行ヒ真實ノ親王タルコトヲ認メ玉ヒテ偏ヨリ內外人民ニ公布アルハ一ノ便法ナルニ似タリ

歐洲ニテ王室ニハ私生子ヲ認ムルコトヲ許サスト雖那破侖三世ハ憲法ニ於テ養子ヲ以テ帝位ヲ繼クコトヲ許シタルハ佛國ノ法律家ノ問題ニ私生子ヲ養子トシテ相續ヲ許スヘキヤ否ヤノ事ノ未定タルヲ利用セントシタリト云ヒ此レ因ヨリ模範トスルニ足ラスト雖亦一ノ參照トスルニ足ル

故ニ左ノ兩案ノ一ニ裁定アランコトヲ請フ

甲 總テ親王宣下ヲ廢シ皇子ハ生レナカラ親王ト稱ヘ其他ハ諸王トス（宮中顧問ノ案）○或ハ皇子孫ハ皆親王ト稱ヘ其他ノ皇族ハ諸王トス 世襲親王ヲ廢ス（柳原案）

乙　嫡皇子ハ生レナカラ親王ト稱ヘ庶皇子及其他ノ皇族ニハ親王宣下ノ式アリテ始メテ親王ト稱フ

宮中顧問ノ案ニ依リ立案ス

其ノ後第二案ニ於テ改メテ玄孫以上親王トス

一帝室財産ノ事

帝室財産ノ一語ハ両様ノ解釋ヲ有シ而シテ往々混雜シ易キカ如シ両様解釋トハ其一ハ

帝室全部ノ費用ニ充ツル爲ニ帝室ノ財産ヲ定メ現在官有地ヲ以テ悉皆御料地トシ御料局ニ属ス

又他ノ一ハ

帝室内部ノ御料即チ御手元金ニ充ツル爲ニ帝室ノ私産ヲ定メ御料局ニ属ス

爲ニ帝室ノ私産ヲ定メ御料局ニ属ス

第一ノ解釋ハ欧洲各國ノ所謂シヴイル、リストニシテ帝王ノ尊嚴ナル供奉ニ充ツル者即チ帝王ノ公産ナリ故ニ此ノ解釋ノ主義ヲ實行スルトキハ巨大ナル財産ヲ分割シテ御料地トナスヲ必要トス

第二ノ解釋ハ其中ニ或ハ帝室相傳ニ属シ或ハ帝王一身ニ属スル、區分アレトモ均シク私法ノ範囲ニ係リ政權ニ關係ナク御手元ノ御遣料タル私産ノ性質ニ帰スル者ナリ故ニ此ノ意義ニ依ルトキハ之ヲ實施スルニ當リテ巨大ナル御料地ヲ定メラルヽキニ非ズ

獨乙學者ノ説ニ拠ルニ獨逸ニ於テ此ノ第一第二ノ公私両様ノ意義ヲ混淆シテ王室ノ私産ヲ以テ王家ノ公

費ヲ支辯セントシ從テ王家ヲ封殖スルヲ以テ必要ト
シ國民ト利ヲ爭フニ汲々タルノ邦サカテス（シルチエー氏）
侯國「クールヘッセン」ト於テ千八百十三年ニ六千萬「フロ
レン」ノ價値アル財産ノ處分ニ關シ君主ト豪族トノ間
ニ紛爭ヲ生シ或ハ國主ノ私有物ナリトシ或ハ國有物ト
シテ抗議解ケサリシカ如キ是ナリ（ホワプ氏ニ據ル）
李國ニ於テハ他ノ獨乙各國殊ニ墺國ノカメテ王家ノ
私産ヲ封殖スルニ拘ラス其祖先以來一國ノ君主ハ一
國ノ元首トシテ公權ニ屬シテ私權ニ屬セス故ニ君主
ノ奉養ハ當然ニ國庫即チ國有物ノ入額ヨリ供給スヘ
クシテ私産ヲ以テ供給スヘキニ非ズトノ大義ヲ發明
シ「フリドリヒ、ウヰルヘルム」一世王ハ千七百十三年ニ

於テ王領地ヲ擧ケテ官有物ニ帰スヘキコトヲ明言シ同
時ニ其入額ノ中二百五十萬「ダーレル」ヲ以テ王室ノ經費
（シヴイル、リスト）ニ當テタリ李國普通法典ハ特ニ一條ヲ掲
ケタリ曰王領地及王室財産ハ政府ノ特ニ所有スル不動
産ナリト故ニ李國ニ於テハ王領地即チ官有地ニシテ其
入額ハ一ハ國ノ元首ノ需要ニ供シ一ハ國ノ他ノ需要ニ
供スル者ナリ（リオンネ氏ニ據ル）
ウエルテムベルク國モ亦李國ニ倣ヒ憲法第百三條ニ於テ
「王室財産ハ王國ヨリ分離スヘカラサル官有物ナリ」ト明
言シタリ百八條ニ於テ別ニ王家ノ私産ヲ定ム
シカノミナラス李國法典ハ君主ノ私有財産ニ就テモ亦
左ノ如ク規定シタリ曰私有財産ノ得有主タル國王ニ於

テ生前ニ又ハ死後ノ為ニ不動産ノ處分ヲ定メ置カサルトキハ此ノ不動産ハ國ノ王領地ニ合併シタル者ト看做スヘシト(第二部第十四篇十四條十五條)

再ヒ獨乙學者ノ説ニ拠ルニ歐洲中古ノ君主封建ノ一大豪族タルニ當テ國家ヲ以テ私產トナシ各々私有ノ領地ヲ占メ其入額ニ依テ一家ノ奉養ト兼ネ政務ノ經費ヲ支辦シタリ此レ乃チ内庫費ノ由テ起ル所ノ原因ナリ其後各領主ノ上ニ君臨スルニ及テ非常ノ費用ト稱シ各領主ヨリ貢税ヲ徵スル為ニ豪族會議ニ於テ徵收ノ承諾ヲ取リタリ此レ又他ノ一方ニ於テ租稅承諾ノ議權ノ由テ始マル所ナリ(シルチュー氏リオン子氏ロスレル氏)

我國ハ上代ヨリ帝室改革ノ費要ハ均シク全國ノ義務ニ

屯倉ノ御手元料ナリシコトハ歴世天皇ノ室名又ハ皇子名ヲ為シ屯倉ヲ置カシ或ハ或ハ寵臣ニ賜シニ事アルニテ知ラレタリ

ヨリ徵收スル所ノ租稅ヲ以テ之ヲ支辨シ更ニ帝室ノ經費トシテ別ニ財產ヲ置カレサリシハ全ク至尊ノ位ヲ以テ公法上ノ一國ノ元首トシ一家ノ私事トナサヽル所ノ立憲ノ大則ニ符合スル者ナリ(但屯倉田ノ設アリシハ即チ前ニ畧ケタル第二ノ解釋ノ種類ニシテ御手元御料ノ性質ナリシナルヘシ)

此ノ事ハ我カ憲法ヲ建テラルヽニ於テ一方ニ於テハ内庫費ノ陋制ニ依ラス他ノ一方ニ於テハ議稅權ノ過度ナル擴張ヲ許サヽル為ニ第一ニ貴重スヘキ國体ノ基礎ナリト信ス

此主義ニ依ルトキハ左ノ結局ヲナス

一帝室經費ハ國法上ノ必要ニシテ國庫ノ最重義務ナリ

（官有地入額ト租稅トニ掲ラス）

一 憲法又ハ他ノ法律ヲ以テ定メラレタル帝室經費額ハ會議ノ結果ヲ以テ之ヲ左右スルコトヲ得ス又決算ヲ勘査セス

一 現在ノ官有地ハ即チ皇有地ニシテ官有ト皇有トノ分割ヲ爲サス但シ大藏省ノ管理ニ屬シ（又ハ農商務省又ハ内務省）宮内省ニ屬セス

一 帝室ノ儲蓄ヨリ生シタル私法上ノ財産ハ御料局ニ於テ管理ス

一 御料局管理スル所ノ財産ハ官有地ト全ク之ヲ區別ス

此ノ方法ハ獨逸體及立憲ノ主義ニ適フノミナラス又實際ノ便宜ヲ得ル者ナリ左ニウエルケル氏ノ說ヲ抄錄ス

問王室費ハ王領地ノ入額又ハ其他ノ入額ヲ指定シ王室ニ奉供スルヲ便宜トスルヤ又ハ「ハノーウエル」國ノ如ク一定ノ土地山林ヲ以テ王室ノ直轄トスルヲ便宜トスルヤ答此ノ疑問ハ私心過慮ニ起ル者ナリ國庫ノ歲入ハ王室直接ノ歲入ニ比スレハ賤汚ナル者ニ非ス又危險ナル者ニ非サルナリ彼ノ一定ノ土地ヲ以テ王室ノ直轄トスルカ如キハ既ニ「ハノーウエル」ニ於テ經驗シタルカ如ク王室ノ土地政府ノ管理ヲ受ケサルカ爲ニ無益ノ冗費ヲ要シ且經理其宜キヲ得サルコトヲ免レサルナリト

右仰裁定

現今ノ官有地ハ即皇有地ニシテ但皇室常產ヲ置ク

一皇族年俸ノ事

皇族ノ年俸ヲ賜フニ両様ノ法アリ

甲ハ各皇族ノ等親ニ應シ一代限ニ年俸ヲ賜ヒ従令年俸ニ換ヘ不動産ヲ賜ヒタルニセヨ又一代限ニ皇室ニ還帰セシメ其子孫ハ又其等親ニ應シ遞減シテ別ヽ給ス（柳原伯ノ案）

乙ハ親王及皇太孫ヲ除ク外ハ支系別家ノ性質トシテ定俸ヲ賜ヒ其正統子孫ニ相續セシム其支系ノ二三男ハ其未年年ニ當テハ家主ヨリ奉養シ丁年ノ後ハ其父ノ三分一ニ充タサル年俸ヲ補給ス（是レ嫡孫迄巴威尔等ノ國ニ行フ所ナリ）

右両様ノ一ニ定メラレンコトヲ乞フ

巴威尔家憲第六章第六條ニ次生ノ皇子ハ其給養費ノ定マリタル上ハ其一族ノ給與ハ勿論其息女ノ嫁資其息男ノ構邸費並ニ給與及ヒ自系中ノ宇寡費ノ支辦ヲナサヾルヘカラス若シ其一族多數ニシテ其給養費ヲ以テ應分ノ給與ヲ爲スヒ堪ヘサルカ或ハ支系ノ皇子ノ爲メ王家ノ皇子ノ給養費ノ最サ額三分一ニモ給與スルヿ能ハサルトキハ國王ハ其欠額ヲ補填ス

次生皇子ノ支系中ニ斷絶スルモノアルトキハ其支系皇子ニ與フル給養費額ハ之ニ付着スル宇寡費及ヒ皇女ノ給與及ヒ嫁資ノ負擔ト共ニ其支系ノ他族ニ平等ニ分配ス但シ該支系最後ノ系主ニ於テ既ニ國王ノ認諾ヲ経テ定メタル所アルニ非サレハ國王ハ該給養費

額ヨリ該皇女ニ與フヘキ給與及ヒ嫁資ヲ定ムル ノ權アリトス

索遜王國家法第二十五章ニ王ノ二三男已下ノ王男ノ領收セラルヽ所ノ歳費ハ其薨去ニ際シ其男系ノ王男ニ帰ス

但該王男ハ諸王女ノ活計及ヒ孀婦ノ見継料ヲ負担セサルヘカラス

王ノ二三男已下ノ王男ニシテ在世中王ノ許可ヲ経タルトキハ其歳費ヲ如何ニ其男系王男ニ配分スル手ヲ定ムルコトヲ得

同第二十七章ニ王ノ二三男已下ノ王男若シ其眷属特ニ夥シク隨テ定額歳費ヲ以テ應分ノ家計ヲ營ム能ハサルトキハ國庫ヨリ其不足ヲ補給スベシ

右両様兼用ヰテ立案ス

一皇太后ト皇后トノ位次ノ事

今皇族ノ位置ヲ叙列セシニ皇太后ト皇后トハ何レヲ前ニ置クヘキヤ

獨逸各國ノ家憲ハ皇后ヲ先ニシ皇太后ヲ後ニシタリ

「ハノーウル」家憲ニハ此ノ位次ヲ明文ニ掲ケタリ

露國ノ家憲ニハ其第二十八條ニ云皇后ハ寡居ノ時ト雖ドモ皇帝在世ノ時ニ異ナルコトナク一定ノ権利ヲ有ス故ニ在位ノ皇帝ノ皇后ヨリ首位ニ属ストアリ

右両様ノ中何レヲ御採用アルヘキヤ

若シ皇太后ヲ以テ前ニ置クノ議ニ決セラレハ従テ一般

皇族ノ位列モ亦先帝ノ親王ヲ以テ今上ノ親王ノ上ニ位次セラルベシ此ノ議如何

皇后ヲ上位トス

後第二案露ノ例ニ依ル

一立太子ノ事

立太子ノ事ハ上代ノ日嗣御子ヨリ傳来シタル典故ナレハ之ヲ保存セラルヽハ當然ノ事ナルヘシ但シ左ノ疑題アリ

往古以来太子ノ名義ハ御父子ニ拘ラスシテ一ノ宣下ノ性質ヲ為シタリ故ニ御兄弟ノ間ニハ立太弟ト宣命アルノ外皇姪ヲ立坊アルモ亦太子ト呼ヒ成務天皇日本武尊ノ第二子ナル足仲彦尊ヲ立テヽ皇太子ト為ス即チ仲哀天皇ナリ

従姪孫ノ天皇ヨリ族叔祖ヲ立坊アルモ亦太子ト呼ヘリ孝謙天皇ノ淳仁天皇ニ於ル甲今皇位継承ノ順序ヲ定メラレ皇子孫ナキトキハ皇兄弟皇伯叔ニ傳フトセラレシニ此時立太子ノ冊命アルヘキ乎

乙若立太子ハ皇子皇孫皇姪ノ卑属親ニ限リ其他ノ同等親以上ニハ行ハルヘキニ非ストセハ皇兄弟以上ノ継承ノ時ニハ践祚ノ日迄何等ノ宣下モナクシテ打過キ玉フヘキ乎

前ノ議ニ従ヘハ立太子ハ養子ノ性質ノ如クナリテ名義穩ナラス後ノ議ニ依レハ實際ノ事情ニハ稍ヤ適當ヲ欠クニ似タリ

又履仲天皇ノ反正天皇弟ヲ以テ儲君トシ玉ヒシ例ニ依

り儲君ノ名義ヲ法律上ニ定メラレ宣下公布アルベシト
ノ議モアルベシ此レモ當時ハ「ヒツギノミコト」ト稱スル名
號ハアリシナルヘケレトモ儲君ノ字ハ史家ノ當ラ用ヒ
タルニテ綽號ニ類シ今日法律上正當ノ名稱トハナシ難
キニ似タリ

此ノ事如何御決定アルヘキ乎（叙品ヲ存セラレ一品親王宣
下ヲ以テ換用アルモ亦一ノ便宜法ナルニ似タルカ）

乙ニ從フ　一品親王ノ説ヲ取ラズ

一庶出ノ皇族ノ事

皇位継承ニ於テ已ニ嫡庶ノ分ヲ嚴重トシタル上ハ庶
出ノ皇族モ亦嫡出ト區別アラシムヘキニ似タリ如何
ノ區別アラシムヘキ乎其席次元歳俸ハ如何

又勅許ヲ経サル皇族ノ婚姻ニ誕生アリシ子ハ庶子ニ
准スヘキ乎

右乙裁

嫡庶ノ分ヲ以テ起案ス

一四親王家庶分ノ事

中古ノ制五世以下ハ姓ヲ賜ヒテ人臣ニ列スルコトアリ
タレトモ（或ハ五世ヲ待タストモ）政洲ノ例ヲ參考スルニ
ハ皇族ノ子孫ハイツマデモ皇族ニテ人臣ニ降ルコトナ
シ故ニ李國ノ如キハ其祖先ヨリ分流シタル小宗ノ王族
アリテ其一ヲ「ホー」ヘンワヲーレルン、ヘシゲン」家トシ其
二ヲ「ホー」ヘンワヲーレルン、シマリン ゲン」家トス（但シヘ
シンゲン家ハ今ハ斷エタリ）此二家ハ諸般ノ家格総テ王

室ニ同シク我國ノ四親王家ト粗似タリ此ノ主義ニ従ヘハ現在ノ親王家ヲ廃スルハ如何アラン且又支系ノ皇族ヲ存立スルハ獨皇嗣ノ儲備トナスノミナラス皇家ノ婚姻上ニ於テ其道ヲ廣カラシムル便宜アルニ似タリ

或ハ五世親絶ノ主義ト宗室世襲ノ原則トヲ両存シテ天皇ノ特旨ノ處分ニ任セテハ如何

右乞裁

未定

後第二案世襲親王家格ヲ廢ス

一皇孫以下ノ歳費ニ長系ト次系トヲ分ツヤ否ヤノ事

皇孫以下ニハ其支系中ニ又長系ト次系トアリテ支那ノ大宗小宗ノ如ク段々ニ枝分スヘキナリ然ルニ長男ト次男以下トヲ分タスシテ一槩ニ歳費表ニ依リ賜給セラレンコト如何アラン第一ニハ大宗ト小宗トノ區分ナキハ道理ニ合ハサルナリ第二ニハ長系ノ方ハ婦女ト幼弟トノ養育ノ撫養ヲ擔ヒ次男以下ハ此ノ負擔ナキニ歳費ハ同等ナルハ公平ナラサルナリ

或ハ皇孫以下嫡長継嗣者ニ限リ表ニ依リ賜給シ其他ハ次男以下ハ遞次ニ一級下等ノ歳費ヲ賜フトセンコト適當ナルカ例ヘハ皇曾孫ノ父ノ継嗣タルハ第三等費ヲ賜フモ其次系ニシテ父ノ継嗣タラサルハ第四等費ヲ賜フカ如シ

右仰裁

長次ヲ分チ立案ス

一皇族位列ノ事

皇族ノ席次ヲ專ラ皇位繼承ノ順序ニ依ラシトスルトキハ種々不都合ノ事情アリ

第一　皇族女子ハ總テ男子ノ極末ニ列ラシメラルヘキ手

第二　同シク天皇ノ皇子ナリ而シテ先帝ノ皇子ハ今帝ノ皇子ヨリ下ニ列スヘキ手叔ハ姪ノ下ニ列スハキ手

露國ノ皇族今ニ從ヘハ第一等ノ尊稱ヲ皇子女兄姉妹及皇孫ニ授ケ第二等ノ尊稱ヲ皇曾孫ニ授ケ其尊稱ノ等級ニ從テ位列ヲ爲ス是乃先帝ノ親王ハ今帝ノ曾孫ノ上ニ列シ皇位繼承ノ順序ニ拘ラサルナリ

今斟酌シテ左ノ如ク定メラルヘキ手是レ一案ナリ

㊀凡ソ皇族ノ位列ハ總テ親等ニ依ル即チ凡ソ皇子ハ皇孫ニ先タケ皇孫ハ皇曾孫ニ先タツノ類

親等ノ數フルハ其由テ出ル所ノ天皇トノ間ノ親等ニ從ヒ今上トノ間ノ等親如何ニ拘ラス

凡ソ皇子ハ先帝ノ皇子ト今上ノ皇子トニ拘ラス總テ嫡長ノ次第ニ從フ皇孫以下皆同シ

皇太子皇太孫皇太曾孫ハ前項ノ例ニ在ラス（右露國ニ依ル）

㊁皇族ノ位列ハ總テ皇位繼承ノ順序ヲ以テ準トナス但シ天皇ハ特ニ皇族ノ位列ヲ指定スルコトヲ得（孫遞及ハノーフル等ニ依ル）

皇族女子ハ男子ノ順序ニ依準ス

右乞裁定

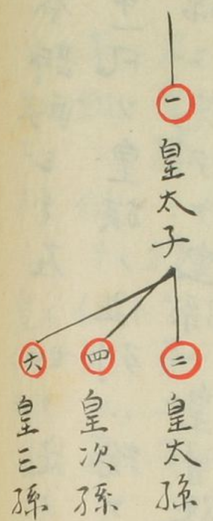
但或ハ暫ク明文ニ載セスシテ之ヲ或部ニ任スルモ尤可ナルニ似タリ

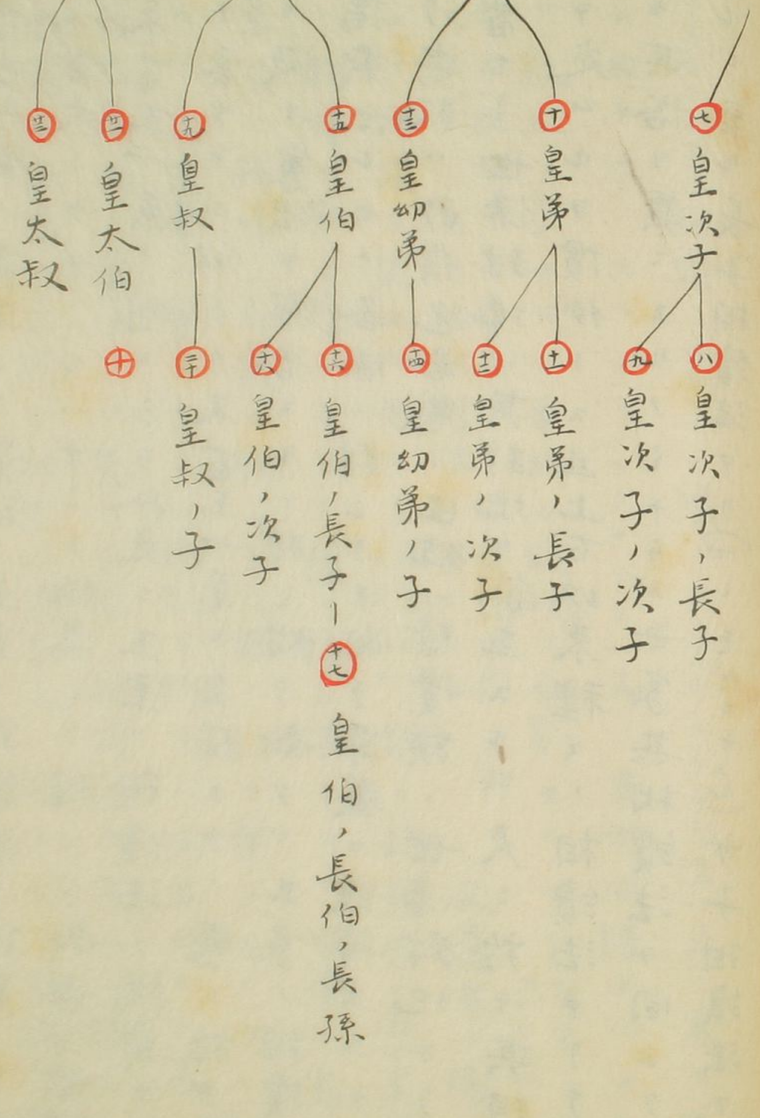
乙ニ依ル

後第二案末ノ但説ニ依ル

継承ノ順序ニ依レル所ノ席順不都合ヲ示ス為ノ表

井上





総論

欧羅巴各國ノ憲法ニハ最初ニ王室ノ相續法ヲ掲載スルヲ以テ重大トナサヽルハナシト雖恭シク惟フニ我國ハ開闢以來百王一系ノ國ニシテ今更ニ王室ノ相續法ヲ掲載セシコト要ナキニ似タリ又百王一系ト自稱スルノ國ニ於テ各國ニ倣テ憲法ヲ布告スルノ時ニ始テ新タニ王家ノ相續法ヲ掲載セシコト各國ニ對シテモ自ラ尊嚴ヲ毀損スルニ似タリ其故ハ欧羅巴各國ノ王位ハ皆貴族ノ世傳封地ヨリ來ル者ナリ世傳封地ハ其封地ヲ創立スルノ人ニ於テ其相續法ヲ定ムルヲ慣例トス且上古以來種々ノ相續法アリテ國各々其俗ヲ異ニスルノミナラズ毎家其相續法ヲ同シクセサルニ至ル長子相續法アリ(プレモゼニチュル)サ子相續法アリ(マイノゼニチュル)相續ハ男子ニ限ルアリ(サルランド法)又ハ男ヲ先ニシ女ヲ次ニスルアリ(コグナート)又ハ男女同權ナルアリ又ハ數人ノ子アレハ平均ニ領地ヲ分割スルアリ有名ナル(シャルマニュ)ハ即チ此法ヲ○魯西亞ハ彼得児以前ノ即チ行ヒタリ此分割法ヲ用ヒタリ始メテ相續ヲ定ムル者アリ羅馬田法ヨリ來ル故ニ欧羅巴ノ歴史中ニハ相續ノ爭ヒ歴々トシテ踵ヲ接シ甚シキハ甲國ノ君主女系又ハ結婚ノ名義ニ託シテ乙國ノ位ヲ奪フモノアリ加フルニ又宗旨ノ爭モアリ此紛乱ヲ防クノ必要ナルカ爲メ欧羅巴各國ノ憲法ニハ先ツ王家ノ相續法ヲ第一ニ掲ケタリ我國ノ王室ノ系統ハ祖宗以來不文ノ間ニ自ラ不拔ノ憲法ヲ存シタレハ強チニ事新ラシク掲載スルノ要用アルコトナク而シテ之ニ掲載スルハ却テ欧羅巴ニ摸倣スルノ痕

跡ヲ顕ハスニ似タリ且欧羅巴ノ王家相續法ニ於テ重要ナル條項ハ第一ニ私生子ヲ退クルコト第二ニ男系ナキトキノ女系ノコト第三ニ君主不能力ノ時ノ處分等ナリ然ルト假ニ我國ノ憲法ニハ特別ノ事情アリテ此三ツヲ掲載スヘカラストセンカ其他ハサシテ重要ナル條項アルヲ見ス今重要ナラサル條項ノミヲ掲ケテ以テ王室相續篇ノ欠ヲ填メントスルハ各國ニ摸倣セント欲シテ却テ各國人ノ譏ヲ招クニ近カラン

故ニ我國ノ憲法ニ於テハ王家ノ事ニ就テハ寧ロオホラカニ一ツノ大綱ヲ掲クルニ止マリ其他ノ事ハ之ヲ不文ニ附スル方然ルヘキニ似タリ其大綱ノ條ハ略左ノ如クナルヘシ

一皇統ハ皇祖ノ遺範ニ遵ヒ萬世一系神孫ノ兼クル所トス

若又相續ノ事ノ大綱ヲモ要ストナラハ

一若先帝登遐ノ際定マレル皇太子又ハ皇太孫ナキトキハ嫡長ノ順序ニ從ヒ皇子又ハ皇孫大統ヲ継クヘシ皇子皇孫ナキトキハ皇兄弟皇諸父ニ及フヘシ親王ナキトキハ諸王大統ヲ継クヘシ